

有害鳥獣対策シリーズ 第1回（全4回）

イノシシは「藪」が大好き!?

～ 習性を知ることが対策の第一歩です ～

有害鳥獣対策を担当する地域おこし協力隊がお届けします！



イノシシの本当の姿

実は臆病!? 音や光は？

イノシシは環境の変化に敏感で警戒心が強いので、匂いや音、光を使うと一時的に來なくなることがあります。しかし、これは「慣れていないから警戒している」だけで、時間が経てば慣れて無視するようになり、また侵入してきます。イノシシが本当に嫌がる匂いや音は存在しません。むしろ、匂いのある物を置くと、逆に呼び寄せてしまう可能性もあります。オオカミの尿、青色LED、超音波なども、効果がないことが分かっています。



藪・茂みがポイント

イノシシが好む環境

臆病で警戒心が強く人間のことを怖がるイノシシが、なぜ人間の生活圏に出てくるのでしょうか？
答えは「体を隠せる場所があるから」です。イノシシにとって、50～60センチ以上の藪や茂みは、身を隠しながら安全に移動できる絶好の隠れ家となります。藪は日陰で涼しく、汗をかけない暑さが苦手なイノシシにとって快適な場所です。
雨が降れば、水はけの悪いところでは水たまりができ、イノシシが好む泥浴びもできてしまいます。
つまり、藪や茂みは「隠れ家」であり「涼しい休憩所」であり「泥浴び場」にもなる、イノシシにとって最高の環境なのです。



身近な方法で追い払おう

私たちができる環境整備

防護柵を設置しても、近くに藪や茂みがあれば、その効果は大きく薄れてしまいます。イノシシ対策で最も大切なのは「体を隠せない環境」を作ることです。草の高さを30～40センチ以下にするだけで、イノシシは身を隠せなくなり、警戒して近づかなくなります。特別なことは必要ありません。いつもの草刈りのついでに、いつもより少し広めに、1メートルでも2メートルでも刈るだけで効果があります。ちょっとした工夫で、イノシシの居心地を悪くすることができるのです。



イノシシが身を隠せない環境づくりを！

次回は「電気柵は『置けば安心』じゃない!？」をご紹介します。

問 農林振興課 林務耕地係 ☎0968・34・3111

不法投棄ごみを回収しました

問 住民環境課 生活環境係 ☎0968・86・5727

7月11日田（一社）熊本県産業資源循環協会荒玉支部の皆さんにご協力いただき、上十町区の県道沿いで不法投棄ごみのボランティア撤去作業を実施しました。

当日は猛暑の中での作業となりましたが、不法投棄されていた木材や不要となった農機具のほか、ペットボトルや空き缶、空き瓶など、多くのごみを回収・撤去していただきました。重労働にもかかわらず、迅速かつ丁寧に作業を行っていただいた協会荒玉支部の皆さんに、心より感謝いたします。

不法投棄は、美しい自然景観を損なうだけでなく、生活環境や地域の安心・安全にも悪影響を及ぼす犯罪行為です。町では今後もパトロールなどを実施し、不法投棄の防止に努めます。



不法投棄は犯罪です！

不法投棄と聞くと家電製品や廃材などを思い浮かべることが多いかもしれませんが、空き缶やペットボトル、たばこの吸い殻などのポイ捨ても不法投棄です。

また、廃棄物を穴に埋めたり、自分の土地であってもみだりに捨てたりする行為は、不法投棄に当たります。



■ 罰則

不法投棄は法律で禁止されており、違反した場合は“5年以下の懲役もしくは1千万以下の罰金（またはその両方）”が科せられることがあります。

■ 実際にあった不法投棄の種類

- ・家電製品やソファ、自転車等の粗大ごみ
- ・建築廃材や建設現場から出たコンクリート片など
- ・家庭ごみやポイ捨てされた一般ごみ

■ 不法投棄を見かけたら

不法投棄を発見した場合は、速やかに以下の情報提供をお願いします。（分かる範囲で大丈夫です。）

- ・日時：いつ頃発見したか
- ・場所：具体的な場所（目印など）
- ・内容：どのような物が、どのくらいの量
- ・車両：不法投棄している場面を目撃した場合は、車両のナンバー・車種・色



土地の所有者（管理者）や地域の皆様へのお願い

私たちが出来る対策として、定期的な巡回や草刈りなどがあります。

人通りが少ない場所や日陰、ごみを隠しやすい草むらや樹木の間など、不法投棄の現場となりやすい場所を極力減らしましょう。

一人一人がごみ処理のルールを守り、不法投棄を「しない」「させない」意識を持つことで、美しく住みよい和水町を守っていきましょう。